

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年6月10日

【四半期会計期間】 第119期第1四半期(自 平成27年2月1日 至 平成27年4月30日)

【会社名】 株式会社きんえい

【英訳名】 K i n - E i C o r p .

【代表者の役職氏名】 取締役社長 丸 山 隆 司

【本店の所在の場所】 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目5番1号

【電話番号】 06(6632)4553番

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 好 井 裕 一

【最寄りの連絡場所】 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目5番1号

【電話番号】 06(6632)4553番

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 好 井 裕 一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第118期 第1四半期累計期間	第119期 第1四半期累計期間	第118期
会計期間	自 平成26年2月1日 至 平成26年4月30日	自 平成27年2月1日 至 平成27年4月30日	自 平成26年2月1日 至 平成27年1月31日
売上高 (千円)	838,850	795,556	3,269,486
経常利益 (千円)	58,045	41,072	164,427
四半期(当期)純利益 (千円)	26,604	21,676	78,838
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	564,200	564,200	564,200
発行済株式総数 (千株)	2,821	2,821	2,821
純資産額 (千円)	1,645,457	1,693,594	1,698,056
総資産額 (千円)	5,138,547	4,876,374	4,981,435
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	9.54	7.77	28.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			10.00
自己資本比率 (%)	32.0	34.7	34.1

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、株高等による消費マインドの改善を背景に個人消費が回復しつつあり、また円安や原油安等の影響で企業部門の業績も上向き、緩やかな回復基調で推移しました。

この間当社におきましては、事業全般に亘る顧客満足度のより高いサービスの提供と部門別業績管理の徹底をさらに推進し、集客と収入の確保に努めましたが、売上高は795,556千円(前年同期比5.2%減)となりました。

費用面におきましては、部門別業績管理の徹底により、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めました結果、営業利益は40,008千円(前年同期比7.2%減)となり、経常利益は41,072千円(前年同期比29.2%減)、四半期純利益は21,676千円(前年同期比18.5%減)となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業

(A) 概要

“ドラえもん” “暗殺教室” “イントゥ・ザ・ウッズ” “名探偵コナン”などの話題作を上映するとともに、引き続き「アポロシネマメンバーズ」の会員獲得による販売促進活動を積極的に推し進めました。しかし、前年同期には「アナと雪の女王」が記録的な大ヒットとなったこともあり、収入合計は、358,843千円(前年同期比9.6%減)となり、営業原価控除後のセグメント利益におきましても2,269千円(前年同期比85.9%減)となりました。

(B) 営業成績

区分	単位	当第1四半期累計期間 (平成27年2月1日から 平成27年4月30日まで)	前年同期比(%)
劇場入場人員	千人	221	6.3
劇場収入	千円	278,008	8.3
遊戯場収入	千円	80,834	13.8
合計	千円	358,843	9.6

不動産事業

(A) 概要

前々年度にルシアスビル事務所テナントにおきまして大型の退去がありましたが、後継テナントの積極的な誘致活動を進めた結果、このセグメント全体の収入合計は436,713千円（前年同期比1.2%減）となり、物件費等の費用節減に務めた結果、セグメント利益につきましては、104,592千円（前年同期比2.9%増）となりました。

(B) 営業成績

区分	単位	当第1四半期累計期間 (平成27年2月1日から 平成27年4月30日まで)	前年同期比(%)
不動産賃貸収入	千円	376,413	0.3
不動産付帯収入	千円	55,179	7.1
その他事業収入	千円	5,119	7.9
合計	千円	436,713	1.2

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して105,060千円減少し、4,876,374千円となりました。

(負債)

負債は、借入金の返済等により、前期末に比較して100,598千円減少し、3,182,779千円となりました。

(純資産)

純資産は、配当金の支払い等により利益剰余金が減少したため、前期末に比較して4,462千円減少し、1,693,594千円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,821,000	2,821,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	2,821,000	2,821,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年2月1日～ 平成27年4月30日	-	2,821	-	564,200	-	24,155

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 31,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,731,700	27,317	
単元未満株式	普通株式 58,300		
発行済株式総数	2,821,000		
総株主の議決権			

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式54株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社きんえい	大阪市阿倍野区 阿倍野筋1 5 1	31,000		31,000	1.10
計		31,000		31,000	1.10

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	88,170	102,475
売掛金	106,610	111,540
商品	3,641	4,672
その他	439,567	349,794
流動資産合計	637,989	568,483
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,106,872	2,158,659
機械及び装置（純額）	57,579	54,855
工具、器具及び備品（純額）	70,972	78,633
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,359,172	3,415,897
無形固定資産	47,885	43,705
投資その他の資産		
差入保証金	892,132	799,785
その他	44,255	48,503
投資その他の資産合計	936,388	848,289
固定資産合計	4,343,445	4,307,891
資産合計	4,981,435	4,876,374
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,800	115,153
短期借入金	150,000	430,000
1年内返済予定の長期借入金	381,920	6,920
未払法人税等	44,917	18,800
賞与引当金	10,600	23,300
その他	534,092	602,397
流動負債合計	1,230,330	1,196,570
固定負債		
長期借入金	6,580	3,120
退職給付引当金	70,936	72,199
受入保証金	1,606,046	1,551,226
資産除去債務	279,895	280,957
その他	89,589	78,707
固定負債合計	2,053,047	1,986,209
負債合計	3,283,378	3,182,779

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年1月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,213,687	1,207,463
自己株式	106,256	106,488
株主資本合計	1,695,786	1,689,330
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,269	4,264
評価・換算差額等合計	2,269	4,264
純資産合計	1,698,056	1,693,594
負債純資産合計	4,981,435	4,876,374

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年2月1日 至平成27年4月30日)
売上高	838,850	795,556
営業原価	721,067	688,694
営業総利益	117,782	106,862
一般管理費	74,652	66,853
営業利益	43,130	40,008
営業外収益		
受取利息	820	378
受取和解金	14,970	-
工事負担金収入	-	1,749
雑収入	2,350	478
営業外収益合計	18,142	2,606
営業外費用		
支払利息	3,221	1,538
雑支出	5	3
営業外費用合計	3,227	1,542
経常利益	58,045	41,072
特別損失		
固定資産除却損	15,170	15,658
特別損失合計	15,170	15,658
税引前四半期純利益	42,875	25,414
法人税、住民税及び事業税	26,000	18,000
法人税等調整額	9,729	14,262
法人税等合計	16,270	3,737
四半期純利益	26,604	21,676

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (平成26年2月1日から 平成26年4月30日まで)	当第1四半期累計期間 (平成27年2月1日から 平成27年4月30日まで)
減価償却費	87,949千円	83,401千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(平成26年2月1日から平成26年4月30日まで)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年4月24日 定時株主総会	普通株式	27,901	10.00	平成26年1月31日	平成26年4月25日	利益剰余金

当第1四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年4月28日 定時株主総会	普通株式	27,900	10.00	平成27年1月31日	平成27年4月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(平成26年2月1日から平成26年4月30日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・ア ミューズメント 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	396,979	441,870	838,850	-	838,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	396,979	441,870	838,850	-	838,850
セグメント利益又は損失()	16,108	101,673	117,782	74,652	43,130

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失()は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・ア ミューズメント 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	358,843	436,713	795,556		795,556
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	358,843	436,713	795,556		795,556
セグメント利益又は損失()	2,269	104,592	106,862	66,853	40,008

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失()は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (平成26年2月1日から 平成26年4月30日まで)	当第1四半期累計期間 (平成27年2月1日から 平成27年4月30日まで)
1株当たり四半期純利益金額	9円54銭	7円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	26,604	21,676
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	26,604	21,676
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,790	2,789

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年6月8日

株式会社きんえい
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 辻 内 章 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤 川 賢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社きんえいの平成27年2月1日から平成28年1月31日までの第119期事業年度の第1四半期会計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成27年2月1日から平成27年4月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社きんえいの平成27年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。